

公的部門の会計基準設定主体フォーラム 2016 報告

IPSASB ボードメンバー 伊澤 賢司
IPSASB テクニカルアドバイザー 落谷 竹生

はじめに

2016年3月14日(月)及び15日(火)の2日間にわたり、米国の政府会計基準審議会(略称 GASB: コネチカット州ノーウォーク)において、公的部門の会計基準設定主体フォーラム(Public Sector Standard Setters Forum 2016)が開催された。主催は GASB で、国際公会計基準審議会(IPSASB)も準備段階から協力した。

このフォーラムは、世界各国の公会計基準設定主体担当者のネットワーク作りを主目的として、初めて開催された。背景には、ここ数年間の世界各国における、IPSASB が定める国際公会計基準(IPSAS)の急速な普及がある。IPSAS の導入時には、純粋な IPSAS をそのまま導入するのではなく、各国の実情に応じてカスタマイズが行われることが多い。そこで基準設定主体の担当者間でネットワークを作り、議論を通じて理解を深めることが求められている。また、IPSASB 自身も、本フォーラムの開催を通じて IPSAS 適用上の問題点の把握、及び各国の基準設定主体のニーズの吸い上げの効果を強く期待している。

今回のフォーラムには 70 名以上が参加し、基準設定主体としては 20 か国以上(筆者私見では以下の表の 22 か国)が参加した。また、EC などの国際機関からも担当者が参加した。

地域	参加国
北米	アメリカ、カナダ
欧州	イギリス、ノルウェー、オーストリア、キプロス、スイス、チェコ、フランス、ポーランド
アジア	インド、シンガポール、フィリピン、パキスタン
アフリカ	ケニア、ザンビア、ジンバブエ、タスマニア、南アフリカ、モザンビーク
オセアニア	オーストラリア、ニュージーランド
国際機関	EC、世界銀行、OECD、INTOSAI、欧州統計局

日本からは基準設定主体は参加していない。IPSASB の関係者は参加をあらかじめ求められており、小グループに分かれてのディスカッションにおいて、筆者もそれぞれファシリテーター(推進役: 伊澤)、ノートテイカー(メモ取り役: 落谷)として別テーブルに参加した。

開会あいさつ等

GASB 議長の David Vaudt 氏、及び IPSASB 議長の Ian Carruthers 氏の 2 名によって、開会あいさつと本フォーラムの趣旨説明が行われた。

会場内は 9 つのテーブルに参加者が分かれており、上記に続いてテーブルごとに参加者間の自己紹介とフォーラムへの参加を通じて何をしたいかを話した。

IPSASB の最新状況

IPSASB 前議長の Andreas Bergmann 氏、及び Ian Carruthers 氏の 2 名によって、IPSASB のここ数年の検討内容等が紹介された。概念フレームワークの完成、推奨実務ガイドラインの公表、社会給付等の進行中のプロジェクトに関する作業計画等である。

社会給付について

IPSASB 事務局の Paul Mason 氏により、IPSASB における社会給付プロジェクトの進捗状況の説明が行われた。続いて、各テーブルに分かれて、各国が抱える課題について議論を行った。

選択部会

IPSASB においてプロジェクトが進行中の、収益、非交換費用、文化遺産の 3 つのテーマから各参加者が希望する 2 つのテーマを選択し、小グループに分かれて各国が抱える課題について議論を行った（3 テーマ×各 2 部屋×2 回）。

IPSASB の作業計画外の論点

各参加者は 7 つのテーマから希望する 3 つを選択し、各テーマのテーブルに分かれて議論を行った。7 つのテーマは、小規模主体、連結及び支配、財務業績（業績指標など）（会計基準の）適用上の論点、税金支出（予算との関連等）、天然資源（石油・ガス等）、サービス業績である（7 テーブル×3 回）。

IPSASB が実行予定のプロジェクト

インフラ資産、公的部門における測定、リースの 3 つのテーマは、今後 IPSASB で議論する予定である。議論開始に先立つ情報収集に資するため、各国が抱える問題意識をテーブルごとに議論した。

IPSAS の適用状況の調査

参加各国における IPSAS 又は発生主義会計の適用状況について、テーブルごとに最新の情報を提供し合った。

アカウンタビリティ・ノウ

「アカウンタビリティ・ノウ (Accountability Now)」とは、国際会計士連盟 (IFAC) が現在進行中のプロジェクトのことで、特に発展途上国における財務報告の改善を通じて、より良い公共財政管理 (PFM) を実現することを目標としている。IFAC 事務局の Vincent Tophoff 氏より概要説明を受けた後、各テーブルに分かれて、基準設定主体としてどのように貢献できるかについて意見を出し合った。

今後に向けて

本フォーラムの多くの内容は、上記のとおり小グループに分かれてのディスカッション形式で行われた。初日夜のレセプションでの交流も含め、参加者同士が気軽に話をする関係を作ることができるように工夫されていた。参加者からの感想は大変好評であり、継続的な開催を希望していたため、今後も本フォーラムは年次又は隔年での開催となることが想定される。

以 上